

最優秀賞（佐賀県推進委員会委員長賞）

「再び歩み出すために」

神崎市立脊振中学校 3年 永石千洋

先日、友達と駅前を通った時のことです。私と同じくらいの年齢の中学生たちが募金活動をしていました。腕には黄色い腕章、手には募金箱を持ち、後ろの看板には「更生保護施設を出た人の社会復帰を応援します」と書かれていました。それを見て私は、「更生保護」という言葉の意味がよくわかりませんでした。その時、一人の生徒が「更生ってやり直すという意味で、私たちは一度犯罪を犯した人たちが罪を償った後、社会復帰できるための活動をしているんだ。」と教えてくれました。私は、人は犯罪を犯したり、非行に走ってしまうと、もう普通の生活には戻れないというイメージを漠然と持っていました。テレビやニュースで事件や犯罪のことはよく聞きますが、その後のことを知る機会はほとんどなかったからです。

その後家に帰ってから、私は色々と調べてみました。すると、社会を明るくする運動の中には、犯罪や非行を防ぐだけでなく、過ちを犯した人がもう一度社会の一員として生きられるよう、地域で支えていくことを目指していると書かれていました。私はそれを読み、明るい社会のためには、罪を犯してしまった人を、その後どのように社会として受け止めるかも大切なんだと感じました。

そして、同様のことが、私の身近な学校生活の中でも言えるのではないかと、思いました。例えば、クラスで誰かが失敗したときや嫌な事を言ってしまったとき、周りが距離をとってしまうことがあります。その子が反省してやり直そうとしても、周りに受け入れてもらえなければ孤立してしまいます。そうすると孤独に苛まれたその子は、また同じ失敗を繰り返すかもしれません。けれども、周りが受け入れてくれたら孤立することもなく、相談することができるかもしれませんし、周りも、その子との関わりの中で小さなことでも未然に気がつきフォローできるかもしれません。失敗を受け入れることは、当人にとっても周りの人にとっても大切なことだと思いました。

罪を償い、やり直そうとする本人の気持ちと、その人の気持ちを支える周囲の理解や協力があってこそ、本当に過去の過ちから立ち直ることができるのではないのでしょうか。社会を明るくするためにできることは、私たち中学生にもたくさんあります。いじめなどを見過ごさないこと、困っている人を助けること、失敗してしまった人を助けること、失敗してしまった人を受け入れること。小さな行動でも、積み重ねれば、きっと大きな変化につながるはずです。

私はこれからも、自分の中の思い込みや偏見に気づいたら、直すようにしたいです。そして、過去ばかりではなく「これから」を信じて行動できる人でありたいと思います。たとえ自分一人の行動がすぐに社会を変えることはなくても、その一歩が誰かの背中を押し、さらに別の誰かの勇気につながるかもしれません。そうやって広がった輪は、やがて大きな力になっていくはずです。

駅前で出会った募金活動の姿は、私にいろんな事を考えさせてくれる大きなきっかけとなりました。これからも私は、迷ったときには「受け入れる」ほうを選びたいと思います。明るい社会は、一人ひとりの小さな勇気から始まると私は信じています。その勇気を忘れず、これからの毎日を歩んでいきたいです。